

'75西日本自動車レース大会

3月30日 中山サーキット

主催：山陽スポーツランド

3月30日、中山サーキットの今シーズン初のビッグイベント〈'75西日本自動車レース大会〉が、春風によってかわいづくしの坊やが顔をのぞかせた周囲の山々に力強いエキゾースト・ノートをひびかせて行なわれた。

大会は関西、中国の両陣営に加えて、四国・高知からなぐり込んだ青木健一郎が大あばれして大いに盛り上がった内容となった。

★山陽Mクラス・レース 出走13台 30周
このレースに出走するマシンの色分けは、360ccのTS Iクラス5台、ボアアップしたりボディを加工したR仕様のIIクラス8台の計13台だ。

予選1位はボディ・シルエットを変更して現われた④青木（ロジャー・フロンテ）。前回、自己が記録したMクラスのベスト・タイム1分01秒6を0秒1短縮した。予選2位は青木から2秒9おくらせて⑦坂田徳隆（ホンダZ）、3番手は⑩前田照文（ホンダZ）。この3人が最前列を占めた。

信号灯を合図に好スタートを見せた坂田と前田がせり合いながら第1コーナーに向い、イン側の坂田がまずトップに立った。出おくれた青木は、アウト側にふくらんだ前田の内

側に飛び込んで2位だ。

やがて最終コーナーから最初に現われたマシンは青木、以下は坂田、前田、⑩安藤隆志（ホンダZ）というラインアップとなった。

Iクラスのトップは8番手の⑧上田伸（ダシロップ・クーベ）。

トップの青木は序盤から1分2秒台で飛ばし、2番手の坂田は早くもエンジン不調で水を開けられた。3周めにはいると2番手に前田が進出してトップ青木への追撃戦をはじめ、差は開くばかりであった。この周に5位にいた安藤が第1コーナー入口でチェンジ・レバーを折り脱落。

青木はますます好調。10周めにはいると最後尾を走る車をとらえはじめた。2位との差は30秒以上も開いている。その後も彼はまったくあぶなげなく走るが、最終ラップ、周おくれの車と接触するというハプニングが起こった。しかし彼はそのまま走り切って優勝。タイムは32分02秒1だった。2位には25秒おくらせて前田、3位に④安原がはいった。

<MIIクラス> 1位 青木健一郎（ロジャー・フロンテ）30周 2位 前田照文（共栄



Mクラス優勝の青木健一郎(④フロンテ・クーベ)。



4月24日、ポルシェのオーナーで組織されている日本ポルシェ・クラブ関西支部の中山サーキット走行会が行なわれた。

参加車は26台で、ポルシェ911が8台、914が6台、ポルシェターボが3台、カレラRSが5台、これにフェラーリ・ディノ246GT、シトロエンなどが加わりスーパーカー・ファンのチビッコも大喜び。

なった。ベストタイムは⑤松波祥文氏がカレラRSを操り1分4秒02を記録。スタンドの観衆もその速さにア然といった感じ。ちなみにこのコースで行なわれるレースでのベストタイムは、ノーマルのサバンナ・クラスで1分6秒台。

ポルシェ・クラブでは、ことしの秋に富士スピードウェイで走行会を行なう予定が